

7月分

会社は支払手形で潰れる。

7月6日

私は多くの会社の倒産を見てきましたが、ほとんど手形が原因です。お客様が受取った手形が不渡りになって連鎖倒産することあれば、自ら振り出した手形が滞りせなくて倒産します。会社の将来性がないために廃業できるケースは大変幸運です。大部分の経営者はギリギリまでムコはり、夕方の夕方に迷惑をおかけして倒産します。

倒産しない一番の方法は手形を発行しない、受取らないことです。例えば受け取る手形を考えると、もし3ヶ月の手形を受け取っていたら、現金商売をしていれば1ヶ月で被害が済んでいたものが、4ヶ月の被害になります。4倍です。本来潰れなくてもより会社まで潰れてしまいます。

今はキャッシュフロー経営の時代です。銀行が以前のようにお金を貸さなくなりました。むしろ貸しはかしくしています。自分の会社は自分で守るしかありません。支払手形があると銀行に首根の足を押さえているのと同じです。手形を滞らすためのお金が銀行の都合で借入金の返済に充当されてしまいます。支払手形がない場合はお金の入金には借入金のない銀行に移し、借入金の多い銀行は返済額を少なくする交渉をすることが出来ます。いかにリスクです。

商売で一番ものをいうのは、現金という時代がもうすぐやってきます。海外では手形がありません。日本だけですが、したがって、できる限り早く手形を無くし、キャッシュフロー経営に慣れておく必要があります。手形を出さない、受け取らないことです。

ではどうしたら支払手形を週治できるのでしょうか。私共のお客様でT社さんがあります。この会社では、一年前で4億円以上あった支払手形が3月末決算で1億円以下になりました。1年間で約3億2千万円の支払手形が減ったのです。T社さんは、仕入先が外資にいたためにいやがおうでも現金払いを一年前に約束させられました。どこかで資金を調達したかと言いますと、まず仕入先への保証金の返還で52M円、買掛金の支払条件の変更で10M円、受取手形の期日短縮で30M円、長期借入金の増加で130M円、^{在庫}定期預金の解約で30M円、そして、繰引後利益の蓄積で30M円です。

会社は支払手形をゼロにするにはそんなに大変なことではないと思います。支払手形ゼロの会社は多くありますし、実質有利子負債ゼロの会社も数多くあります。まおは経営者が手形発行をやめると決意し、宣言することです。打つ手は無限ですが、バランスシートの資産科目と負債科目の残高を変えることが資金運用です。特に資金別貸借対照表をよく吟味して、売上仕入資金のサイト負けの改善、棚卸資産の圧縮、計画的な損益資金の確保により、大幅な財務体質の改善が可能です。

最後にもう一度、会社が倒産するのは、手形が滞りすぎることです。